

資料2. 袖ヶ浦福祉センター虐待防止になされた勧告・提言の一覧

	改善すべき内容最終 報告書	指摘事項 第三者 委員会	指摘事項 進捗管理委員会指摘	指摘事項 保護者ア ンケート	指摘事項 施設ア ンケート	指摘事項 千葉県総 合支援協 議会	事業団	なされた対応	評価
地域整備	地域の小規模入所やグ ループホームから通所 (会見録)		地域移行の中間施設が必要では。地域に向けて どういう改革をしていくかという評価が 全く項目としてたっていない。はるにれの里の実践を参考すべきである。グループホ ムの廃止10箇所は。地域移行は、県の責任である。					着手なし	X
地域移行(隔離)	孤立した生活空間(会見録)				重度者が社会から疎外	タイムスリップ した印象、老朽 化、隔離の雰 囲気。		なし 現在地にいる限りで は解決不能	X
	強度行動障害の地域移行 (会見録)	強度鼓動障害の拠点を 幾つか県内につくり、地 域支援体制を作る	16圏域のスーパーバイズを育てるイメージ「少数精鋭で行くべき」。グループホームに デいの整備も行う。研修も地域移行の研修でないと無意味。16名は少なすぎるのでは。 160人にすべき。地域の人材は非専門家のサポートでもできる。成功事例をつくるべ き。マネージャーでなく、専門員を置いて個別相談をするべき。マネージャーは地域資 源を知らない。地域支援部を作るべき。これはよろしく願います。(4回)でも現在11 回でも設置なし。個別支援計画に地域移行がふくまれるのは、養育園で5か6程度。個 別支援計画が個別処遇計画になっている。処遇の極限は虐待に至る。ようやく袖ヶ浦に たどり着いた親の気持ちを考える必要。養育園で移行はマネージャーに聞くと家族任せ。 県の補助制度の緩和必要。16名の枠は少なすぎる。、受入 れ先の開発・開拓は県の事 業。、市町村行政を巻き込むことが必要。、県が主導的な役割を果たし、積極的に知恵 を絞ること。強度鼓動障害といっても20名程度ではないか。あとの人たちの地域移行 は本人たちでなく、県の場作りに問題がある。		強度鼓動障害の要綱 自体を見直すべき		センターのみが支 援ではない	地域では一名程度？10年 間かけて地域移行・施設 移行できず(最)民間からも 評価されず(最)県「事業団 の中に移行支援ワーキン グチームを設置」にもかか らず、マネージャーが担当 し続ける。	X
	職員の視野狭窄(会見録)		移行した先を「直接見た職員というのは非常に少ない」事業団・・それではだめ・若い職 員が現況になれてしまう。					研修、パーソナルサポ ーター	◎
	障害特性に応じた施設整 備等による改善(最早急)		短期・有期限の目標を入れる。診療室は自給自足で孤立化につながる。大規模施設内 でのユニット化が望ましくない。	ごもっともな 改善計画は ともかく、進 捗状況を公 表して。県内 施設すべて 立て直し、検 証必要。	形骸化した理事会、報 告内容は信頼できな い、検証者は現場を知 るべき。直接支援内容 は発信されていない。 事例を聞きたい。	多数の職員が 集団的に継続 的に虐待他 に移れない問 題。入ったら出 られない。入所 施設定員の緊 急時の流動化			
閉鎖性	閉(外部専門職の派遣等 によるチェックシステムの構 築)(最早急)	民間施設長を虐待防止 アドバイザー パーソ ナルサポーターの設置 体 罰は一度も報告なし	第三者委員との面談希望。		センターは孤立。外部 の目・意見が反映され ない体質。情報発信が ない。	入所施設の開 放性	計画相談は別組織 を使う	現在はパーソナルサポ ーター、今後のシステムは不明 頻回な重層的なチェッ ク体制の整備	△
内ネグレクト	外出困難(会見録)日中生 活の充実(会見録)	腕を組んでの管理「把 握」を廃止。殺風景な場 はやめる。	鍵のあるなしでなく、地域に 出て行く場面が日々あるということが開放性、日中活動を みたい、モニタリング以外の日に。障害の重い人の日中活動が貧困、軽度の人の外出 も少ない。デイルームでは、利用者を職員が見張っている、職員と利用者が楽しんでい ない高齢の方の日中活動も本人がやる気にはなれない代物。日中活動を1時間やって 終わりではいけない。日中活動とは言えないという感じがしました。全体的なモニタ リングではAだったりBだったりしましたが、。今いる人たちの暮らしを良くする。CF.県の 説明「更生園の日中活動のメニューの乏しさ等は、現在、プログラム内容の見直しを 図りつつある」17年1月。ネグレクト週に散歩も1、2回	常識から かけ離れた 対処無責任。 お役所仕事。	サービス提供は死亡事 件がすべてを物語る。 派遣職員が落胆して 帰った。			利用者の外出依然 困難 ネグレクト週に散歩も1、2 回 依然として課題活動が 継続(1月	X
	豊かな生活を志向する支 援 問題行動でなく(会見 録)	問題行動対策ばかりで、 豊かな生活がない。生活 寮の生活に計画性なし。 他の支援のため入浴を 取りやめた 利用者本位 に。	豊かな生活のできるユニット化を。日中活動の充実を。衣類なども正視できないような 服装がみられる。衣類、住居でも人権侵害。個室、家具なども問題がある。お代わりは ない。朝食は9時までで食べられないときもある。冷えたご飯を温める電子レンジも使え ない。点数化で生活の質が隠れる。ハードの問題がある。更生園の廃墟のような中では 人らしい暮らしは無理。人達の暮らしと暮らしのあり方に視点を職員が持たないとだ め。、日中活動がきちんとされていない。デイルームでどうして何人も集めているの		反面教師として勉強に なった。期待はずれ。 派遣職員の報告を聞いて 疑問。反面教師。	入所施設で支 援が必要な強 度鼓動障害へ の疑問		個別支援計画 個別支援 計画はできたが、豊かな はできていない。) △	△

資料2. 袖ヶ浦福祉センター虐待防止になされた勧告・提言の一覧

	改善すべき内容最終 報告書	指摘事項 第三者 委員会	指摘事項 進捗管理委員会指摘	指摘事項 保護者ア ンケート	指摘事項 施設ア ンケート	指摘事項 千葉県総 合支援協 議会	事業団	なされた対応	評価
施設	どう思うかを持っている か支援者がつかむ(会見 録)		モニタリング会議への保護者の参加、個別支援計画に保護者の同意がない例あり。個別支援計画でなくて施設内管理計画である。本人の意志と計画に乖離がある。生活の管理的な不自由な生活。保護者への各家庭ごとの説明丁寧に。個別支援計画に地域移行が含まれていない。個別支援計画に本人の参加がない。機械的な個別支援計画でないか。、地域で暮らすことをイメージした個別支援計画を。代弁機能がないのでは。利用者本人の意向を、苦情としてではなく日常の中で汲み取るということが支援の根本。入所施設で集団型の更生園のような中では、管理で利用者の意見は聞けない。				人ひとりの気持ちに寄り添うという部分については、まだまだ私達の弱さがある	個人の意志確認はごく一部自己決定はトライしていない 本人の意思確認ほとんど家族	△
	職員も利用者も密室の中に放置されていた(会見録)	デイルームでの集団管理に問題。	も民間 施設等で地域でどんな暮らしができるかの研修を。		職場風土が重要。評価はゼロ、むしろマイナス。安易な服薬。			依然として閉じこもりネグレクト	X
少人数でのケア	行動障害など集団生活に馴染まない人が集団生活を強いられている(会見録)	養育園は5名程度の生活単位で。	ユニット化7500万は第2寮のみ？それだけでグループホームができるのでは。1寮のユニット化20名？		共同生活は小規模化すべき、			全く改善なし、集団を単位として生活している	X
	その施設は四五人程度の単位で生活できる(会見録) 少人数ケアに転換(最早急)	更生園はグループホームとして建て替え			強度鼓動障害の補助加算は施設のみでグループホームにはない、抜本的な見直しを。良質なグループホームを増やす	グループホームの設置基準の緩和。強度行動障害者のグループホームの増設	グループホームの建設	むしろグループホームを手放した、4、5人の単位を実現できたグループはない。事業団 県とも動きなし	X
定員半減	定員半減は県による新規施設の設置が前提(会見録)		ハードが あってどうぞじゃなくて、ハードを作るところから一緒にやっていくべき。			入所施設定員の漸減		全く動きなし。、県は「民間施設それから、地域への移行を進めて定員を減ら	X
	平成29年度末までに半分程度を目指す(会見録)定員規模を縮小する(半分程度を目指す)(最早急)	半分くらい バランスのとれた移行	移行がうまく出来ない場合は、独自にグループホームを作るべき。更生園の見込みでは無理。少人数化は、どうなっているか。意識がないのでは。指定管理者がグループホームを作るのは数が問題。		更生園養育園とも各40名、他は地域法人に分散化		ガバナンスと快適性からダウンサイズ 養育園は個室小規模ユニット化	養育園半数、更生園困難とてもできそうにない状態。県「と細かい行程表を作っていく必要がある」	X
有期			短期・有期限の目標を入れる。					有期限の契約がなされている。ただし、実態は	
与	コロニーの建物使用 建替えは喫緊、		立派な施設の立て直しは、また施設型支援を継続することになる。ハードが暗い、ハードの集団前提の構造が、虐待を誘発。終生型施設の再建か、地域を志向するかが、分岐点。終生型の施設は虐待防止にはならず再生産させる。				センターのハードには課題がある新しいハードの中では子供達にすごく落ち着きが出てきており、そこでは子供に対する支援の質が良くなってきている	着手なし 既に二年経っているが変化なし あそこの建物をおののままの状態でもいいという人は一人もいない(会見録)県は「定員削減後の建て直し」つまり30年以降。「30年度以降の指定管理者の 選定の際にも指定管理者の意見を踏まえて施設整備を行う」	
	県全体での障害児の受入先を確保(最早急)民間法		出身地に近い場所での支援必要。県一つではいけない。					新規施設の増設 施設型に留まる	△
	上記を、29年度になってすぐ考えられないので28年度には検討する(会見録)		全体的見取り図が欲しい。日程などの実行プランがほしい。進捗感委員会ではビジョンを検討する、虐待は施設に重い人をつめるシステムの問題。					まだ具体的な検討なし	△

資料2. 袖ヶ浦福祉センター虐待防止になされた勧告・提言の一覧

	改善すべき内容最終 報告書	指摘事項 第三者 委員会	指摘事項 進捗管理委員会指摘	指摘事項 保護者ア ンケート	指摘事項 施設ア ンケート	指摘事項 千葉県総 合支援協 議会	事業団	なされた対応	評価
県の進め方	一挙にやるのは困難なので平成29年度までを集中見直し期間と設定し第五次障害者計画で上記を完成(金見録)	最終報告を第五次に盛り込む	更生園と養育園を二つに分けて規模縮小して民間法人の参入は良いが、30年以降は、指定管理が既定とは言っていない。県の他の所でも虐待の可能性があり、県全体のシステムを考えるべき。千葉県には発達障害者支援のための協議会というものがない。アドバンスながらに 移って虐待要因が濃縮温存される。、譲渡は企画提案型なので提案にふくめる可能性。入所型施設システムとについて委員会としてコメントすべき。風化は困る。ビジョンを作る時間がないのでは。「県立施設」として単独か、「民間施設」が早くルールを作ること。、強度行動障害支援等拠点で現時点で半分に定員がなり、新しい事業をする。新しく強度行動障害になった人をショートステイ等で短期入所専用棟、地域支援センター、次のグループホームに移動する機能がよい。単に続けるのは税金の無駄遣い。回転するシステム、地域に地域生活支援センターを作る。そういう募集要項にしないとイケない。人権に配慮した優れた支援が期待分が8億4千万円で評価は厳しくなる。具体目標や工程を早く準備してほしい。できればそのモデル的なところを県がきちっと更生園、養育園で打ち出してやっていくというのが新しい道。、行動障害のある方の生活の改善をし、できる限り地域生活に移行していくという条件に拘っていれば					具体案がない。	?
	県は、センター運営の実態を把握しないまま、運営が適正と評価しており、その責任は看過できない(最)	現場の職員として1-2週間行く 監査は、書面重視でなく日常の実態把握(9回監査担当者ヒヤリング)モニタリングと施設整備担当が同一人では無理。県も委員会も利用者の日常生活を把握してい			県の指導・監査がしっかりしていない。書面監査のみでは足りない。	県監査の実質化、無予告、一部監査		具体的責任への言及なし	
職員の			リーダーからの指導・ヒヤリハットの共有・育成記録の活用・職員の人権感覚が弱い。無期限入所制度が現場を墮落させている。職員も無期限入所施設では管理人にしかたない。		人材不足 センター職員のスキルアップ、職員の体質改善、				
幹部のあり方		ミッションに情熱のあるものをリーダーに	管理者による職員養成、キャリア形成と研修システムの統一。、虐待が 起こらないような大きな改善が本当にあったのか、ということを事業団に聞きたい。管理職、施設長は外部から。		管理者、リーダーの人材不足。幹部管理者の育成。、天下りの禁止、役員、本部の人事の刷新。スーパーバイザーの力量の向上。施設のトップが障害者側に立っていない。強力なリーダーシップを期待、			結局、29年度末では理事長は元職員、養育園、更生園は内部の持ち上がり人事。	
民間に移譲		分割し民間に移譲する。事業団は1民間法人を目指す。指定管理の応募は1箇所のみ。			時が経てば繰り返す。研修でQOLが改善は無理、民間に払い下げゼロからスタート。	指定管理者制度は不適。、指定の不安定さから人材は集まらない。指定管理の随意性に疑問。公募の形式。事業団の体質	一社会福祉法人にシフトすべき		
閉鎖	解散も可能性としてはある(可能性がなければ)(金見録)		、毎回地域移行とデイケアの貧弱さ、意思決定 支援という同じ項目がずっとつながっている。県の説明「更生園の日中活動のメニューの乏しさ等は、現在、プログラム内容の見直しを図りつつある」17年1月。、事件からもう何年も経っている訳なのにあまり改善していない		時が経てば繰り返す。研修でQOLが改善は無理、民間に払い下げゼロからスタート。			総体的にみると、モラトリアム条件をクリアしていないばかりか、最も基本の、生活の豊かさへの視点が研修を重ねた現在、継続している。事件より、何年経っても改善していない現況は、そもそもシステムの本質に由来するものと考えるべき。改善は不可能と現在考えている	

資料2. 袖ヶ浦福祉センター虐待防止になされた勧告・提言の一覧

	改善すべき内容最終 報告書	指摘事項 第三者 委員会	指摘事項 進捗管理委員会指摘	指摘事項 保護者ア ンケート	指摘事項 施設ア ンケート	指摘事項 千葉県総 合支援協 議会	事業団	なされた対応	評価
その他			加害者は誰かと言いますと、(部下や同僚が隠べいして 意図的な虐待を行っていたことに気づけなかった)職員であり、親も(そのような施設に 子どもを入れ続けていたという点において)権利侵害の主体ですよね。(袖ヶ浦福祉センタ ーの利用者を地元の施設等で受け入れない)千葉県知的障害者福祉協会を代表としたその 他の福祉施設も、この人達にとっては明らかに権利侵害の主体となっているわけですよね。さらに、(袖ヶ浦福祉センターに重度の方が集中するという構造を変えられなかった)県も 5 そうですね。						
県の1			、委員会としてどう委員会の意見をまとめていくかということ の中に、県としてどう千葉県内の障害者福祉を引っ張っていくかということをきちっと						